

# 算数科学習指導略案

4年3組 34名 指導者 橋口和洋

本授業では、以下の検証を行うものである。  
 前時までの学習と本時とをつなげ、基礎的・基本的な知識・技能を活用させるための板書や発問、算数コーナーなどの手立ては、子どもたちに効果的であり、習熟を図ることができるか。

## 1 題材 角

### 2 指導計画 (総時数7時間)

動：動かす活動 調：調べる活動 か：かく活動 伝：伝える活動

小題材 ①	育てたい力 思判表	主な学習活動	評価規準の 重点観点	算数的活動の類型化及び活動例				
				動	調	か	伝	
オリエンテ ①	○ ○	1 学び直し、オリエンテーションを行う。	(関)	○	○	○	○	四角形や三角形の角について振り返る活動
角の大きさ ④	○ ○	2 辺の開き具合としての、角の大きさを比べる方法を見付ける。	(考)		○		○	角の大きさを調べる活動 比べ方を説明する活動
	○ ○	3 回転によってできる角の大きさが分かり、角の大きさの単位「度(°)」を理解する。	(知)	○		○		2本の直線を動かすなどして角を作る活動
	○ ○	4 分度器の使い方を知り、角の大きさを正しく測る。	(技)	○	○			分度器を使って角を測る活動
	○ ○	5 分度器を用いて角をかく。(本時)	(技)	○	○			分度器を使って角をかく活動
三角定規 ①	○ ○	6 三角定規を組み合わせてできるいろいろな角の大きさの求め方を考える。	(考)	○	○			三角定規を使って角度を作る活動
練習・力 だめし ①	○ ○	7 既習事項のまとめや確かめをする。	(技)	○	○	○	○	練習問題 

### 3 本時 (5/7)

(1) 目標

分度器を使って、角をかくことができるようにする。

(2) 評価規準

分度器を正しく使って、いろいろな角をかいている。

【数量や図形についての技能】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、分度器を使って角を測る方法について振り返り、本時の学習へ活用する意識を高めることができるようにする。学習課題では、直観的に角をかく課題を提示し、分度器を使いたいという学習意欲を喚起し、感覚としての角の大きさの体得ができるようにする。そして、分度器を正しく使って、角をかくという本時の学習問題へ焦点化できるようにする。

「見通す・見つける」過程では、「角を測る方法が使えるかな」と発問し、前時の学習内容を活用できるようにする。分度器の使い方が順序よく理解できるように、板書を工夫し、一緒に50°の大きさの角をかくようにする。その後、ワークシートを配布し、いろいろな大きさの角のかき方が習熟できるようにする。また、机間指導にて、個に応じた指導ができるようにする。

「磨き合う」過程では、角の大きさを180°より大きな角に広げて、分度器を工夫して角をかくことができるようにする。その際、かき方をグループで話し合う場を設定し、友達と学び合うよさが味わえるようにする。

「振り返る」過程では、適用問題に挑戦することで、本時で学習した分度器を使って角をかく方法の習熟を深めることができるようにする。また、次時は、分度器を使わない角の作り方を学習することを伝え、本時を頑張った子どもたちを称賛し、学習のつながりがもてるようにする。

最後に、学習全体を通して、ICT機器(普通教室先生用パソコン、デジタルテレビ、書画カメラ、デジタルカメラなど)を活用することで、学習にアクセントを加え、よりよく分かる学習の充実を図ることができるようにする。

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価	
10	つかむ	<p>1 前時までの既習事項を振り返る。</p> <p>2 学習課題を受け止める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">50°の角をかいてみよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直角(90°)よりも小さいな。</li> <li>・三角定規の60°よりも小さいよ。</li> <li>・大体このくらいだと思うけど、正確ではないんだよな。</li> <li>・分度器を使って、正確に測って確かめたいな。</li> </ul> <p>3 本時の学習問題をつかむ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">分度器を使って、角をかくにはどうしたらよいだろうか。</div>	<p>算数コーナーや教師や友達の実演等から既習事項を想起できるようにする。</p> <p>50°の角を直観的にかかせることで、角の大きさの感覚を磨き、分度器を使いたい学習意欲の喚起につなげられるようにする。</p> <p>分度器を使うことで正しく角が測れた前時の経験と結び付けて、本時では正しくかけることへの期待感を持たせるようにする。</p>
		<p>4 分度器を使って50°の大きさの角をかく方法について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初はどしたらいいのかな。</li> <li>・角の測り方ときっと似ているよ。</li> <li>・角の測り方の通りにしてみようかな。</li> </ul> <p>5 分度器を使って、50°の大きさの角の正しいかき方を知り、かいてみる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・角を測るよりも難しいな。</li> <li>・順序よくしたら、いろいろな角がかけたよ。</li> </ul>	<p>「学習のしつけ」定着も意識した声かけや見届けをする。</p> <p>分度器を使って角をかく方法が、分かりやすくなるように、板書の仕方を工夫する。また、机間指導の際に、個に応じた指導ができるようにする。</p>
28	見通す 見つける 磨き合う	<p>6 180°よりも大きな角(210°)のかき方はどうしたらよいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・50°と同じ方法でできるよ。</li> <li>・でも、1回ではできないよ。</li> <li>・180°より大きい角を測るときは、2通りの方法があったから、角をかくときにも、2通りの方法がありそうだ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">(180°+□°または360°-□°)</div> <p>7 210°の大きさの角のかき方を発表し、2通りの方法を確かめて、まとめる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> <p>① 分度器と定規を正しく使うと、いろいろな角をかくことができる。</p> <p>② 180°より大きな角をかくには、2通りの方法がある。</p> </div>	<p>前時までの練習事項が活用できるようにノートや教科書を確認させ、グループで話し合っかき方を考えることができるようにする。</p> <p>※ 分度器を正しく使って、いろいろな角をかくことができる。 (活動の様子)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 正しくかけるようになった子どもは、練習問題に挑戦させる。</li> <li>○ 戸惑っている子どもは、板書を振り返らせ、教師と一緒にかけるように個別指導を行う。</li> </ul> <p>分度器を使うことで、いろいろな大きさの角を自由にかくことができる便利さを味わえるようにする。</p>
		<p>8 適用問題に取り組み、本時で学習した角のかき方を振り返る。</p> <p>9 次時の学習を知る。</p>	<p>適用問題で習熟を図る。また、次時への学習意欲が高められるよう本時の学習への頑張りを称賛する。</p>